

鹿児島大が「オンラインヘルスラボ」を開設

鹿児島大学医学部保健学科は、『オンラインヘルスラボ (Kagoshima Health University Online Health Laboratory KU-OHL)』を開設し、このほど地域住民を対象とした一般登録会員の募集を開始した。

KU-OHLは、さまざまな健康関連指標が収載されたヘルスデータ基盤を搭載したシステム。若年から高齢層の幅広い世代の住民を対象に、個々のヘルスデータを「見える化」した状態でフィードバックすることを可能にする。同時に、健康管理に役立つ情報や公開講座の案内などを配信し、多方面から健康支援を行う。

また、鹿児島県内在住の成人と中心とする登録会員を対象に、オンラインアンケートを実施し、得られた回答情報を分析。その結果をヘルスデータとして登録会員に連絡する。登録会員はマイページで自身のヘルスデータを参照することが可能。このほかにも、月に2回の健康情報の配信に加え、健康チェックや公開講座、研究参加者募集の案内など、登録会員の健康管理に役立つ情報を届ける。

KU-OHLの発案には、新型コロナウイルス感染症拡大が影響していた。コロナ禍での身体活動量の減少や生活リズムの不規則化など、生活習慣の悪化が問題視されているが、健診受診率は低下している傾向にある。この

ような状況が長期間継続すると、諸々の二次的な健康被害の発生が懸念されるため、非接触(オンライン)での健康関連指標のデータ収集が求められていた。

若年期、中年期、高齢期では、それぞれで特有の健康問題が存在しており、それらに早期から対処するためには、まずは気づきが大切となる。KU-OHLによる事業は、その気づきのきっかけとなる存在として、医学部保健学科の3専攻(看護学・理学療法学・作業療法学)による合同プロジェクトとして実施することとなった。

KU-OHLでは、オンラインで自身の都合の良い時にアンケートに回答することができ、生活行動や習慣を見直すことで健康の自己管理に貢献する。マイページで自身の回答結果を視覚的にとらえることや、健康情報の定期的な配信を受け取ることもでき、健康的な生活習慣の確立の補助として活用してもらうことが可能となる。

KU-OHLは将来的に、医療費・介護費などのデータとの連結を想定した多世代型健康支援プラットフォームを目指すこととしており、同事業に賛同の企業や自治体などとの共同研究、独自事業としての展開や活用をはじめ、コロナ禍での健康支援施策の一つとして社会への貢献が期待される。

高木兼寛記念シンポジウムを開催 (鹿児島大)



開会挨拶を行う
佐野学長

鹿児島大学医学部及び大学院医歯学総合研究科は、東京慈恵会医科大学及び宮崎大学と合同で、「第2回高木兼寛記念シンポジウム」をオンラインによりこのほど開催し、3大学の教職員及び学生の107名が参加した。高木兼寛は「ビタミンの父」と言われる明治の医学博士。東京慈恵会医科大を創設した。



開会の言葉を述べる
橋口医学部長

このシンポジウムは、鹿児島大医学部、大学院医歯学総合研究科と、東京慈恵会医大が締結した包括的連携協定に基づき、学術交流の一環として実施しているもの。1回目のシンポジウムは令和元年度に東京慈恵会医大を当番校として、鹿児島大と東京慈恵会医大の2大学で実施した。今回の2回目となるシンポジウムは、鹿児